

クリニカルサイコロジスト

THE CLINICAL PSYCHOLOGIST

2014.4.15

第 177 号

日本臨床心理学会事務局 〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22 大学生協学会支援センター内 nichirinshin@univcoop.or.jp

TEL 03-5307-1175 (月・金 10 時-17 時) FAX: 03-5307-1196 郵便振替 00190-8-59797 公式 HP <http://nichirinshin.info/> 4 月 21 日より変更

第 50 回日本臨床心理学会総会（東京大会）のお知らせ（第 1 報）

会員のみなさま、お元気にお過ごしのことと存じます。

2014 年度がスタートしました。今年度臨心は、節目となる第 50 回総会を迎えます。

そこで今総会では、臨心が大切に続けてきた「される側に学ぶ」原点に立ち戻り、「新型出生前診断（NIPT）」について課題提起し、議論を深める全体会を企画・開催します。

ご存じのように、「新型出生前診断」は、2013 年 4 月、妊婦の血液から胎児の疾患の有無を判定する臨床研究として開始されました。「採血のみ」でできる診断方法に、正直言って「ここまでできてしまった」という感拭えません。新聞報道によると、研究開始 8 ヶ月で 3500 人が受診。地方の産婦人科医院でも、この診断を勧められた妊婦の話も耳にします。想像以上に早いスピードで生活の中に入り込んでいます。

2014 年 4 月 3 日、日本経済新聞（夕刊）一面には「遺伝子診断 利用しやすく」の記事が掲載されました。「遺伝子診断」が人の「生」のあり方を脅かしはじめたと受け取りました。

これまで臨心は、「母子保健法の改『正』」や「早期発見・早期治療」等の課題について議論を深め、「障害児・者と共に生きる」あり方を検討してきました。

遡れば、1972 年、兵庫県の「不幸な子どもの産まれない運動」の中で、「ダウン症」児など「障害児」の発生予防を目的とした羊水穿刺の施策化が開始。これに対して、「青い芝の会」など障害者からの批判・追及を受け 1974 年に中止。しかしその後、羊水穿刺は、高齢出産や「障害児」を抱える母親の出産にあたって当然のことのように適用され、今日に至っています。

このことについて、「『羊水検査』実施のねらいー優生保護法「改正」の意図と関連してー」＜不幸な子供を産まない運動とは＞（臨床心理学研究 Vol.11 No.1）として、谷奥克己氏が論文にまとめたのは 1973 年のことです。議論の経緯は「臨床心理学研究」に種々掲載し、1987 年には「『早期発見・治療』はなぜ問題か」を編集・発行しました。この機に、ぜひともご一読ください。この中で提起した課題が、当時以上に見え難い現状を再認識できます。

今年 1 月、日本はようやく「障害者権利条約」を批准しました。また、都道府県では「障害者差別禁止条例」等の制定が進み、明らかに「障害児・者を包摂する」社会の形成を志向しています。しかしその水面下では、「早期発見・早期治療」に関わる「生命」科学の研究に歯止めが掛からなくなりつつあります。

しかも、私たちは新たに大きな課題を抱えました。東日本大震災による福島原発の放射能汚染です。今なお排出する汚染水の処理や除染した土壌の管理、ホットスポットのデータ収取等、対処の目途が立たないまま 3 年を経過しました。福島県に住む母親や子どもたちは、放射能汚染の不安の中で、「産む・産まないの選択」に向き合わざるを得ない状況に置かれています。

このような状況を踏まえて、臨心はあらためて＜不幸な子供を産まない＞という私たち個々の認識を問い、それがどのように形成されているのか、そして「心理」はどのように向き合い行動するべきか、議論をする機会をつくりたいと考えています。（高島眞澄、山本勝美）

月日：2014 年 11 月 15 日（土）

会場：国際オリンピック記念青少年総合センター

心理相談員協議会と臨床心理学会の共催研修会のお知らせ

地域臨床心理学

ー地域臨床における心理的な課題ー

日時：2014年5月18日（日）午後2:00～5:00

場所：「ダイニング街なか2階のスタジオ街なか」（<http://www.vi-machinaka.com/>）

Tel. 03-6454-3870（JR埼京線十条駅北口下車、改札出て左へ徒歩1分）

発題者：藤本豊（明治大学/立教大学）

栗原毅（世田谷区北沢保健福祉センター デイケア）

丹澤和美（NPO法人多摩草むらの会）

参加費：心理相談員協議会会員 500円

臨床心理学会会員 500円

非会員 1000円

臨床心理学というと、精神科病院やクリニックでのカウンセリングが思い起こされます。それは大正時代に内田クレッペリンを考案した内田勇三郎が、松沢病院で働いたことなどもあり、心理職が比較的早い時期から精神科病院に出入りしていたことから、心理の就職先は精神科を含む病院が中心であったことと関連していると思います。そして、多くの場合は面接室での個別相談や面接が中心業務と考えられています。これは病院以外での場でも同様で、スクールカウンセラーも個を対象とすることが多くなっています。臨床心理学の対象者は、病院や学校を含む施設利用者が中心であり、個々の抱えている問題の解決（治療）に焦点が当てられますが、その人の暮らし全体を含めて考えることは少ないと思います。

様々な問題は個々の内的世界で起きていますが、それは社会との関係で生じているともいえます。そう考えると個々に焦点を当てるだけでなく、社会で暮らしている生活者としての視点も大切になってきます。

今までの臨床心理学では、個の内的世界に焦点を当てることで暮らしの視点での支援が出来なかったとも言えます。今回は、臨床心理学の対象を個の内的世界のみにとらわれることなく、地域で暮らす視点を大切にする方法を考えたいと思います。

最初に藤本が、今までの地域での臨床活動を振り返り、地域での臨床心理学についての現状と課題の整理を行います。次に、市民運動に関わってきた栗原さんから市民運動での臨床心理学的関わりの実績を語ってもらいます。最後に、グループホームで地域生活を支援する立場から臨床心理学に期待する点を丹澤さんから提起してもらい、当日の参加者の方々と、これからの臨床心理学についての議論をしたいと考えています。

多くの方々の参加をお待ちしています

日本臨床心理学会デコ メルマガについて

日本臨床心理学会運営委員会

2013年10月10日より、2014年3月29日まで、「日本臨床心理学会デコ(会員有志)のお届けするメルマガです。このメルマガは、電子メールアドレス登録を頂いている日本臨床心理学会会員にお送りしています。」というメールが会員の方々の所に送られているかと思えます。このメルマガは、匿名の本学会有志とありますが、本学会運営との関係はありません。その内容も建設的な学会運営に対する提言ではなく、誹謗中傷的な内容に満ちています。

会員のメールアドレスそのものは、歴代運営委員会の限られた者しか知りえない情報であり、何故、どのような経緯でメールアドレスが流失したのかは、不明なままです。この点に関しては、従来の運営委員会の管理体制が不十分であった結果と考え、深くお詫びします。

今後は、個人情報の取り扱いを厳重に行い、漏えいのない管理体制を整えます。

このメルマガを契機に「送られてくる日本臨床心理学会内部での見るにも悲惨な貧しい言動のやり取りに憤りを感じました。心を扱う者として恥ずかしい実情であると思います。」とのメッセージを残し、退会された方も出ており、運営委員会として、昨年末より法律事務所と相談しながら、現在、厳正な対処内容を検討しています。

事務局からのお知らせ

日本臨床心理学会事務局

1. 学会費納入のお願い

2014年度 学会費のご納入をお願い致します。

郵便振込用紙は、先日お送りしました臨床心理学研究 51 巻 2 号に同封させて頂きましたので、振込をお願いします。過年度分に未納がある方へは合算して表示しています。

なお、払込用紙を紛失されたときは、郵便局備え付けの振込用紙（「払込取扱票」）に何年度分会費を明記して振り込んで下さい。

口座記号番号：00190-8-59797 通信欄：納入額該当年度 ご依頼人：ご住所・お名前・電話番号 金額：1年度につき8000円
--

諸事情で過年度会費の一括の納入が難しい等がございましたら、事務局までお問い合わせください。

退会をお考えの方で、過年度に未納がございましたら、未納分をお支払い頂いた上で、ご退会意志を事務局までお知らせください。

2. ホームページアドレスの変更

4月21日より、ホームページアドレスを <http://nichirinshin.info/> に変更します。5月までは現在のアドレスでもご覧になれます。6月以降は新アドレスのみになりますので、ご注意ください。

3. 会員IDのこと

会員のみが閲覧できる、会員のページをホームページ上に4月21日から開設します。このページを閲覧するには、会員IDとパスワードの入力が必要となります。CP紙の宛名の右下に、会員IDと、パスワードを記載しますので、会員ページをクリックして会員IDとパスワードを入力し、会員ページに入ってください。パスワードはご自身でわすれないように保存して下さい。万一パスワードを忘れたときは事務局にメールでご連絡ください。

日本臨床心理学会

当サイトは日本臨床心理学会の公式ウェブサイトです

[ホーム](#) | [学会について](#) | [会則](#) | [入会案内](#) | [学会誌](#) | [出版物](#) | [会員ページ](#) | [研修案内](#) | [リンク](#)

ここをクリックすると
下記の画面がでるので、ID パスワードを入力して下さい。

ログインフォーム

ここから先は、会員専用のコンテンツとなります。IDとパスワードを入力して、ログインして下さい。

ID

パスワード

ログイン

編集委員会からのお詫びとお知らせ

第 21 期編集委員長 鈴木宗夫

先日お届けしました臨床心理学研究 51 巻 2 号の発表者氏名に一部誤りがありませんでした。14 項のタイトル部分の発表者名が「高田 晃」のところを「高田 晃治」となっています。高田 晃様には大変失礼なことをいたしました。編集委員会より謹んでお詫び申し上げますとともにここに訂正させていただきます。なお、今後はこうした校正ミスが起きないように編集委員会一同鋭意、意を用いてまいります。

現在、9 月の発行を目指して臨床心理学研究 52 巻 1 号の編集準備を開始いたしました。論文の投稿を希望される方は 6 月末までにご投稿ください。なお、52 巻 1 号は 11 月に行われる予定の大会と定期総会についてのお知らせも掲載する予定です。

書籍の案内

「精神医療」別冊第 7 回 精神保健フォーラム

変わるのか？ 病院、地域—精神保健福祉法改正を受けて

長谷川利夫＋岡崎伸郎[責任編集]

「精神医療」編集委員会

税込価格 1700＋税円

本書は、2013 年 11 月 23 日に開催された、精神保健に関わる 18 団体（精神保健従事者団体懇談会）の第 7 回精神保健フォーラムの全記録集です。

2013 年 6 月に精神保健福祉法が改正されましたが、多くの問題を残したままとなっています。今回は法改正の問題点を参加した方々と共有し、一緒に考え、最後にフォーラム宣言を行っております。

4